

子どもに対する感受性

——「かわいい」の背景を養育者要因から探る——

白石 優子*

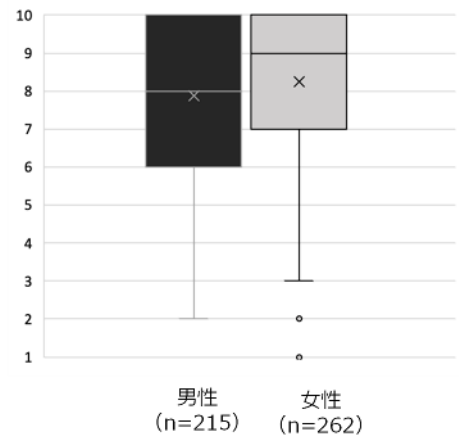
Yuko SHIRAISHI

ユニバーサル・ケア研究所による 2024 年ウェブアンケート調査において、未成年の子どもがいる人を対象に、この 2 週間で自分の子どもを「かわいい」と感じた程度について、「全くかわいくない（1 点）」から「非常にかわいい（10 点）」の 10 件法で回答を求めた。回答が得られた 477 人（男性 215 人、女性 262 人）を分析の対象とした。

「かわいい」と感じた程度は、平均 8.07 点（SD = 1.94）であり、子どもへの肯定的、受容的な態度がうかがわれた。回答者の年齢とかわいいと感じた程度に相関は見られなかった（ $r = -0.04$ ）。男女を比較すると、男性（平均 7.87 点、SD = 1.89）より女性（平均 8.24 点、SD = 1.97）の方がかわいいと感じる程度が高かった（ $t(475) = -2.083, p = 0.038$ ）。男女とも婚姻形態、年齢階層、同居人数、職業、収入等による群間差は見られなかった。

今回の調査では、子どもの年齢データを得ていないため、0 歳から 17 歳の子どもに対する回答が同一に扱われている。一般に、子の年齢と親の年齢は比例するが、親の年齢によって「かわいい」と感じる程度に差は見られなかった。今後は、子どもの年齢や性別を考慮し、育児に対する困難感や子どもへの否定的感情、親子間葛藤といった要支援のサインとなるような指標としての活用を検討したい。また、子どもに対する感受性は生活スタイルや地域性にも影響を受けることが想定される。今回は関東圏に回答が偏っていたため、地域差の分析は困難であったが、今後検討したいテーマの一つである。

表 1 子どもをかわいいと感じた程度



（*川村学園女子大学 幼児教育学科）

